

泉州山手線沿道のまちづくり

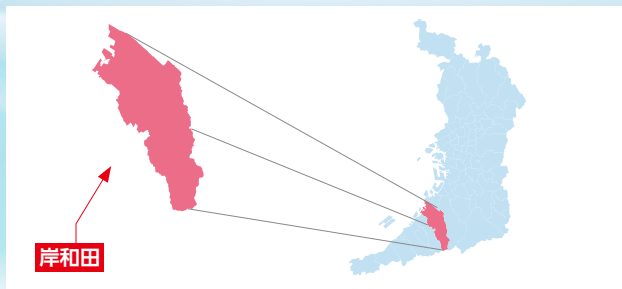
泉州山手線沿道のまちづくりの詳細はこちら



都市計画道路泉州山手線は、大阪都心部と関西国際空港をつなぐ泉州地域の丘陵部を通る広域幹線で、泉州地域のみならず南大阪の魅力を高める新たな交通の軸として計画されています。岸和田市の岸和田牛滝山貝塚線（都市計画道路磯之上山直線）から熊取町の国道170号までの区間（約9.5km）について、大阪府による事業化が予定されており、岸和田市域では、岸和田牛滝山貝塚線から春木岸和田線（都市計画道路岸和田中央線）までの区間が先行着手工区として、両線との結節点となる広域交流拠点のまちづくりと合わせて整備が進められる予定です。

また、沿道周辺に位置する「ゆめみヶ丘岸和田」で行っている、都市・農・自然が融合するまちづくりの取組では、企業誘致や定住人口の増加など新しい“まち”としての機能が発揮されてきていることもあり、泉州山手線と沿道のまちづくりとの相乗効果が期待されます。

泉州山手線は、主に市街化調整区域に位置していますが、沿道のまちづくりを進めるにあたっては都市的土地利用の需要も高いと考えられることから、農地・自然環境の保全に配慮した産業系土地利用を視野に入れ、地域と調和した土地利用計画を進めていく必要があります。



「沿道の有効利用」とともに「交差点周辺の拠点整備」

泉州山手線沿道のまちづくりでは、コンパクトにまとまった拠点が連携することによって、まちの活気、人材の交流・育成につなげることができます。そのため、市内移動の重要な手段の一つとなるバス交通を中心に、将来にわたって、みんなが快適に利用できる公共交通の仕組みを構築し、市内全域でうまく連携のとれる体制づくりを進めています。また、既存の道路網と泉州山手線が結節する部分は交通利便性が他よりも優位になり、土地利用の需要が高まることが予測されます。都市計画マスタープランにおいて、泉州山手線沿道については「沿道の有効利用」とともに「交差点周辺の拠点整備」が掲げられています。



